



平成26年6月26日(木)
校長通心 No.28 校長 馬渡教三



さあ歩き出そう (むのたけじ)

うづくまる気持ち わからぬわけではないけれど
それから先はどうなるの。

結局自分を腐らせるだけではないか…考えよう
登れる山のないように渡れぬ川はありません。

渡れぬ谷はありません。

さあ歩きだそう もう一度

口笛ふいて歩き出そう。

しょげかえる気持ち わからぬわけではないけれど

それから先はどうなるの結局自分をダメにするだけではないか
…考えよう。

明けない空のないようにやまぬ嵐はありません。

晴れない空はありません。

さあ歩きだそう もう一度

まっすぐ向いて歩き出そう。

背を向ける気持ち わからぬわけではないけれど

それから先はどうなるの。

結局自分を閉じこめるだけではないか…考えよう。

抜けないトゲのないように

超えれぬ壁はありません。

破れない壁はありません。

さあ歩きだそう もう一度

手を取り合って歩き出そう。

夏季大会お疲れ様でした。年にたった一度だけ市内の全中学生が一堂に結集した開会式。熱い鼓動を響かせる各中学校応援団。そして、地を踏みしめる力強いエネルギーを轟かせる選手団。我が市川中生の行進も応援もすばらしい迫力だった。団体では、ソフトボール部の見事な三連覇、サッカー部、ソフトテニス部女子、卓球部女子の3位入賞。その他、個人競技の入賞の数々……各会場の筋書きのないドラマに、汗と涙と感動が渦巻いた3日間が終了した。

部活動というのは、中学校生活の中でも思い入れの強い取組の一つである。勉強は「やらなければならないもの」として誰もが必死に取り組んでいるのだと思うけれど、部活動は「やりたいもの」としてみんなが熱く取り組んできたはずである。3年生に限って言えば、2年と3カ月の取組は長いようで短く、過ぎてしまえばあっという間だったと思う。「負けて悔いなし」という美しい言葉があるけれど、「悔いのない負け」なんてないかもしれない。「完全燃焼」という言葉の中に充実感という意味が込められているのだとすれば燃え尽きることができるのは、勝った者だけのような気がする。だから、負けた者はどこかに「悔しさ」を残している。でもこの悔しさは勝つことと真剣に向き合ってきたからこそその思いであると信じている。本気で勝ちたいとこだわり続けたからこそ生まれる悔しさであると信じている。この悔しさがまた自分を成長させてくれると自分に言い聞かせたい。ただ、**勝敗よりも大切なかけがえのないものが存在するのは確かだ**と思う。**うまくなりたい、強くなりたい、勝つことを一心に願い努力してきたこれまでの日々は決して自分を裏切らないし、これからの自分が歩む熱い日々をきっと支えてくれる。**思えば苦しいことが多かったのが部活動だったはずである。上手になりたいからこそ悩みも増え、強くなりたからからこそ苦しさも募り、顧問の先生、監督やコーチからは何度となくどやされ叱咤されてきたはずである。それもまた、今はたまらなくいい思い出であり、かけがえのない青春の日々証だと思う。練習で流した汗も涙も、人知れず流した汗や涙も、面には決して見せず心の中で流した汗や涙もある。その数だけみんなを人間として大きくしてくれた。だからこそ、そこに多くのドラマが生まれ、胸を打つ瞬間が存在したのではないだろうか？**優勝チームに手渡されるカッスよりも、もっともっと重く価値のあるカッスをそれぞれが心の中に残せたら、それに勝るものはない。堂々と胸を張ろう！！**県大会出場を手にした人たちは、そこにたどり着けなかった仲間の分まで思う存分闘ってきてもらいたい。

そして、今日からはテスト週間であり、合唱コンクール練習のスタートでもある。おそらくこの合唱コンクールもまた、各学級にとっても自分自身にとっても永遠に忘れられないドラマや思い出が数多く生まれる大切な通過点になるはずである。

…今から20年以上前の話である。合唱コンクールに向けてあるクラスが動き出した。もちろん最優秀賞を目指して……でも、このクラスの真の目的は、修学旅行以来学校に来ていないKさんを合唱コンに参加させることだった。録音したパート練習用のテープ(その当時CDはまだ存在していなかった)や表現を味付けした手書きの楽譜をリーダーが持っていったり、学級担任も練習の進み具合や様々なドラマがあったことを知らせたり、家庭訪問を繰り返していた。……当日、やっぱりKさんは登校できなかったけれど、みんなへの感謝の言葉と応援メッセージを書いたノートを届けてくれた。学級担任はそのメッセージをみんなに伝え、そのページを人数分コピーし全員に渡した。みんなはそれを折りたたんで胸のポケットへ入れて本番のステージに立った…。結果は優秀賞だったけれど、その歌声をダビングしてKさんに聞いてもらった…その気持ちの宅急便がKさんを感動させたのだった。

学級の構成メンバーは偶然の集まりかもしれないけれど、同じ時代に生を受け、この市川中学校に集い、担任と出会い家庭で過ごすよりはるかに長い時間を一緒に共有している。おまけに部活動と違い同じ目的を持った集団ではないから全員の気持ちが一つの方向に向いているとは限らない。いやむしろばらばらな方向に向いているのだと思う。だからこそ、**一つになって合唱コンを成功させようと努力したり工夫したりする過程に、かけがえのない財産を築く「きっかけ」が潜んでいるのだ**と思っている。…このクラスはkさんとどうしたらつながれるのだろうか？と必死になった結果、クラス全員で合唱コンを共有することですばらしい財産を築けたのだと思う。

…一つの目標に向かって、みんなが力を合わせるとき、その集団に属している全ての人に関わって議論・決定・実行へとチャレンジしながら、多くのことを学び合うから、ワクワク感やドキドキ感が生まれ、同時にゴタゴタやイライラが生まれる。それらを熱く、そして冷静に解決していくからこそ、人間関係の組み替えがあったり、深まりがあったり、広がりがあったりしていくんだと思う。合唱コンが真に求めていることはそういうことかもしれない。

来週から7月。7月が「文月」と呼ばれるゆえんは「含む実月(稲に実りを含む月)」だと言われている。穂の実りをまだ内に秘めながら、穂が必死に育とうと天に向かって真っ直ぐ伸びようとする大切な時期である。だとしたら、それは市川中生のみんなと同じである。みんなにとっても人間力を高める大切な時期である。まずは、文の車輪「2次考査」に全力で向かおう！！